

## 市史講座第 12 回ミニレポート

3 月 8 日(日)第 12 回の講座が開かれました。

第 1 部 : 「武者の世」の始まりと出雲国」(講師:東京大学史料編纂所助教 西田友広 先生)



西田友広先生は「武者の世」のはじまりと出雲国というテーマでご報告されました。中世の武士の成長については、撰家出身の慈円が「愚管抄」で述べた「武者の世」という評が有名です。講座では中世の武士の成長について、「中世以前の律令軍制」と「兵(つわもの)の登場」、「国衙軍制」など、律令制度崩壊後の軍事制度の変遷から勢力を伸ばした人々について指摘されました。

出雲の武士的立場にいた人々に、押領使清滝静平、相撲人出雲盛利などがみられます。清滝静平は、国府の在庁官人でもあり、出雲盛利は中央の近衛府舎人としての立場を有していました。

出雲国では、武士の関わる事件として源義親の乱が有名です。また、源平合戦時には、源氏の一族源義広と関係を有した久木新太夫、伯耆の国の合戦に出雲の武士団が援軍に加わり、一の谷合戦に平家家人として多くの出雲の武士が参戦したとされています。

このような状況の背景として、西田先生は武士のネットワークを注目されています。出雲の武士たちは近隣諸国の武士と中央の武士とのネットワークを持っていたこと。たとえば、清滝氏は石見益田氏と婚姻を結び、平家家人となった武士も京都の警備である京都大番役を介して中央の武士団との関わり結んだこと。これらの中央の武士と近隣諸国の武士とのネットワークを結べるように成長した勢力として、「武者の世」に評される武士をあげることができる。そのような勢力の一つに、紹介した出雲の武士もいたことを指摘されました。

## 第2部：「近現代の松江市の人口の推移とその特徴」(講師:島根大学名誉教授 廣嶋清志 先生)

廣嶋先生は島根県統計書、国勢調査、住民基本台帳などの資料をもとに近現代の松江の人口推移の特徴について講演されました。

松江は明治維新から市制施行までにかけては減少傾向にありましたが、市制施行後は戦前の一時期を除いて人口を増加させていきました。しかし、平成の大合併後の2005年以後に人口減少が生じました。講演ではこうした近現代の松江の人口推移の大きな流れを踏まえた上で、2005年以降の人口の動向について出生率や転入・転出率などから詳細な解説を行い、男性化傾向にある松江の現在の人口の特徴を述べられました。最後に今後の松江の人口推移の展望と、人口対策についても指摘されました。

